

ものづくりと各地との交流を示す遺物が多数出土！

国史跡 青谷上寺地遺跡

●あおやかみじちいせき

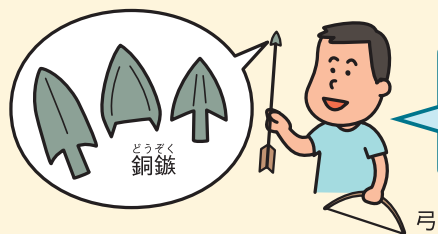
昨年度の発掘調査で約1,800年前の地層から出土した青黒い銅片。これは約2,000年前に大阪湾周辺で作られた銅戈の一部です。

銅戈は柄にとりつけて使う青銅の武器です。弥生時代に朝鮮半島から伝わり、その後日本で大型化してお祭りの道具(武器形祭器)となりました。

ところで、今回青谷上寺地遺跡から出

土した銅戈片には、いくつかの疑問があります。例えば、なぜ小さな破片になっているのか。また、なぜ近畿地方で作られた道具が遠く離れたこの鳥取に運ばれてきたのでしょうか。

この銅戈の小さな破片には弥生時代の人々の交流や社会を謎解きするヒントが隠されているようです。



青谷上寺地遺跡ではたくさんの銅鏃が出土しています。もしかすると、銅戈片は溶かして銅鏃の材料にしたのかも。



出土したばかりの銅戈片



柄に接する部分が出土



松尾頭3号墓の解明に挑む！

国史跡 妻木晩田遺跡

●むきばんだいせき

平成29年度に引き続き、松尾頭10区の調査を行います。松尾頭10区では、平成25年度の発掘調査等により、竪穴住居や複数のマウンド状地形、竪穴住居跡の可能性のある窪地などが確認されています。

平成29年度は、マウンド状地形のうちの一つ(=松尾頭3号墓)を発掘調査しました。調査の結果、松尾頭3号墓は四角い墳丘の外周に沿って溝が掘られ、

その四隅が途切れて陸橋状に溝の外側とつながる「方形周溝墓」で、弥生時代終末期(3世紀前半頃)に造られた墳丘墓であると判明しました。

平成30年度は、松尾頭3号墓の規模や埋葬施設について調査します。さらに、そのほかのマウンド状地形の性格や、墳丘墓周辺の遺構の広がりを確認します。現地説明会は、今秋に開催する予定です。



上空から見た松尾頭3号墓



松尾頭3号墓の陸橋状遺構

今後も「弥生の王国」を代表するこの2つの遺跡のホットな情報をお伝えしていきます。

出前講演を開催しています！

埋蔵文化財センターでは、鳥取県の考古学や文化財について広く情報発信するため、職員(文化財主事)が各地に出向き、「出前講演」を行っています。各種研修会や地域の歴史学習などでぜひ御活用ください。

- 出前講演はホームページでも御案内しています。
<http://www.pref.tottori.lg.jp/28013.htm>
- 講演の実施にあたっては、次の点に御注意ください。
 - ・講師への謝金は不要です。(旅費については要相談)
 - ・会場の準備や会場使用料などの経費負担は、申込者にてお願いします。

●テーマの一例紹介「鳥取平野の人形・馬形」

大柵遺跡をはじめとして、県内で近年多量にみついている人形・馬形などの木製祭祀具について、発掘調査からみる変遷と出土状況から考えられるその使用方法を解説します。

●担当者からひとこと

古代の鳥取の様子を人形や馬形などの祭祀具から考えてみましょう！



講演者 大野哲二